

欧州委員会による
法定監査人の役割に関する市中協議文書
(グリーン・ペーパー)※の概要

※ GREEN PAPER Audit Policy: Lessons from the Crisis
EUROPEAN COMMISSION 2010年10月13日

2011年6月
金融庁

欧州委員会による法定監査人の役割に関する市中協議文書の概要

欧州委員会は2010年10月13日付で法定監査人の役割に関する市中協議文書（グリーン・ペーパー）を公表し、広く関係者からの意見募集を行った。経緯及び概要は以下の通り。

<経緯>

- 2010年 3月11日 米国でリーマンブラザーズ破綻報告書（バルカス・レポート）が公表され、監査人の対応に対しても問題提起。
- 2010年 4月27日 ECが金融危機を踏まえて「監査人の役割」を検討し、討議文書を公表すると表明。
- 2010年10月13日 ECはグリーンペーパーを公表。市中協議開始。
- 2010年12月 8日 市中協議締め切り（後日約700通の回答が寄せられたと公表）。
- 2011年 2月10日 グリーンペーパーに対するラウンドテーブル開催（ECは今後何らかの制度改正を行う可能性を示唆）。2011年秋に提案を公表予定。

欧州委員会による法定監査人の役割に関する市中協議文書の概要

<概要>

- 金融危機において監査人が適切な役割を果たしていなかったのではないかと
いう懸念が欧州で持たれていることを受け、欧州委員会はバルニエ委員を中心
に法定監査人の役割や監査人をめぐる制度の見直しに関するグリーン・
ペーパーを取りまとめた。

- 特に留意すべきと考えられる提案は以下の通り。
 - 担当会計士ではなく、監査法人自体のローテーション制度を検討
 - 被監査会社ではなく、規制当局が監査人を選任し、報酬を支払うことを検討
(特に大手企業及び金融機関)
 - 被監査会社への非監査業務を全面禁止することを検討(極端な場合、監査法
人の機能を監査のみに限定)
 - 監査法人のパートナー以外からの新たな資本増強手段を検討
 - 監査の寡占状況を解消するため、過去20年間の監査法人の合併を解消させ
ることを検討